

9月24日(日) 第二礼拝「ヨム・キプール 大贖罪」 レビ記16章29-31節

ヨムとはヘブライ語で「日」、キプール(カパールという動詞から派生した名詞)は「贖う」「洗う」という意味で、罪が贖われ赦される日のことです。この日は一日中悔い改めます。本文30-31節「主の前」とは主が来られること、「身を戒める」とは悔い改めのことを意味します。悔い改めは「永遠のおきて」であり、悔い改めの祝福は王である主と会うことです。

第一番目、死後にさばきを受けます。ヘブル9:27-28人間は、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっています。さばきとは、死後の行き先が天国か地獄に分かれるということです。キリストは初め、多くの人の罪を負うために来られ、二度目は彼を待ち望んでいる人々(悔い改めてきよめられたキリストの花嫁)のために来られます。そして、キリストの花嫁は携挙され、復活の体に変えられるのです。Iテサロニケ4:16-17「主は、号令と、御使いのかしらの声と、神のラッパの響きのうちに、ご自身天から下って来られます。…生きのこっている私達が、たちまち彼らといっしょに雲の中に一挙に引き上げられ、空中で主と会うのです。」ですから、聖なる主の前に立つために、私達が悔い改めることが重要です。

第二番目、悔い改める機会です。パウロは律法に通じたパリサイ人で、その熱心さは、イエスを信じる人を迫害し殺すほどでした。しかし、主はそんなパウロと出会っていただきました。アダムも同じく、神様が来られ、「あなたはどこにいるのか?」と言われた時、アダムはその責任をエバのせいにし、エバは蛇のせいだとしました。彼らは悔い改めず、その結果、全人類が罪に苦しむことになりました。神様が私達を訪れてくださるのは、悔い改めさせ、救いを与えるためです。ですから、私達は心を低くして悔い改めましょう。

第三番目、神様は誰と会い、誰を招いてくださいますか?ルカ5:32「わたしは正しい人を招くためではなく、罪人を招いて、悔い改めさせるために来たのです。」「正しい人」とは、自分を義人だと錯覚する人で、「罪人」とは、主の恵みによって自分が罪人だと悟った人のことです。聖書は、義人は一人もいないと言っています。イエスは罪人を招くために来られました。ルカ18:10-13パリサイ人と収税人の祈りの中で、自分の罪を悟り、胸を叩きながら悔い改める収税人を、主は義と認めてくださいました。主が求めておられるのは悔い改めです。詩篇51:17「神へのいけにえは、砕かれたたましい。砕かれた、悔いた心。神よ。あなたは、それをさげすまれません。」長年の信仰者であれ、信じたばかりの人であれ、神様の御前で悔い改められることは祝福なのです。パウロは、自らを罪人のかしらだと告白し、このような罪人でも救われたという救いの感動を持っていました。II歴代誌7:14「わたしの名を呼び求めているわたしの民がみずからへりくだり、祈りをささげ、わたしの顔を慕い求め、その悪い道から立ち返るなら、わたしが親しく天から聞いて、彼らの罪を赦し、彼らの地をいやそう。」わたしの民とは、クリスチャン(主に用いられている人)のことです。主に用いられている人の問題は高ぶりです。そのことを悔い改めるなら、主が私達の罪を赦し、癒し、回復してくださいます。アーメン!